

令和3年度（2021年度）第3回すいたの年輪ネット議事録

1 開催日時

令和4年1月31日（月）午後2時から午後3時45分まで
オンライン（ハイブリット型）開催

2 参集場所

吹田市立千里山コミュニティセンター 多目的ホール

3 出席委員

新崎 国広 委員（大阪教育大学教育学部教育協働学科 特任教授）
泉 由紀子 委員
（株式会社ダスキン ダスキンライフケア吹田ステーション 店長）
清水 泰年 委員（公益社団法人 吹田市シルバー人材センター）
矢上 敬子 委員（吹田市ボランティア連絡会 副会長）
美馬 美知紅 委員
（特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク吹田(友遊悠)顧問）
半崎 智恵美 委員（NPO 法人 市民ネットすいた 理事）
岸下 富盛 委員（一般社団法人吹田市高齢クラブ連合会 理事長）
加賀城 恵美子 委員（吹田市民生・児童委員協議会 会計監査）
山下 節代 委員（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 副会長）
牧野 政江 委員（吹田市介護保険事業者連絡会 居宅介護支援部会 実行委員）
新宅 太郎 委員
（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課主幹・広域型生活支援コーディネーター）
川井 裕子 委員（市民委員）
松村 美枝子 委員（市民委員）
佐本 一真 委員
（社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課係長・コミュニティソーシャルワーカー）
奥村 憲司 委員（吹田市山田地域包括支援センター センター長）
乾 裕 委員（吹田市福祉部高齢福祉室長）

4 欠席委員

藤原 俊介 委員（吹田市人権啓発推進協議会 会長）
星 久美子 委員（吹田市介護保険事業者連絡会 訪問介護部会 部会長）

5 会議案件

- (1) 広域型生活支援コーディネーター活動報告について
 - ・広域型生活支援コーディネーターの主な活動について
(令和3年11月～令和4年1月)
- (2) 元気・健康フォーラム2021について
 - ・12/15 元気・健康フォーラム2021 意見交換の記録
 - ・元気・健康フォーラム2021 アンケート集計
 - ・生活支援コーディネーター～耳より情報局～
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト
「シニア世代の活動場所編」
- (3) すいたの年輪ネットのこれまでの取組について
 - ・すいたの年輪ネットの経緯
- (4) 全体協議
 - 「これからの『すいたの年輪ネット』で取り組むテーマ」
 - ・第2回すいたの年輪ネット 意見交換まとめ
- (5) その他
 - ・2年間の活動を振り返って
 - ・事務連絡

事務局：

傍聴者は2名です。5名以内ですので、入室していただきます。

【資料の確認】

【開会】

【委員の紹介】

【委員長挨拶】

皆さん、こんにちは。お忙しい中、また大変な状況の中、御参加いただきありがとうございます。平成28年（2016年）にスタートした吹田市高齢者生活支援体制整備協議会は、愛称を「すいたの年輪ネット」といいます。

このすいたの年輪ネットは、有償サービスを作ったり、何かそういったものを作ることを目的とするのではなく、自分たちの地域は自分たちで豊かにするという思いの中で、今まで行政や社会福祉協議会が、丁寧に行ってきた地域福祉の推進という視点の中において、地域の方々が高齢者の生きがいづくり、健康づくりをどうし

ていくかを進めて参りました。

本日も、委員長職務代理者より様々な地域での取組を報告してもらいます。今回、ようやく緊急事態宣言が明けて、これからという時に新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）第6波でこのような状況となりました。

この厳しい状況の時にこそ、いろいろな意見をまとめたり考えたりしながら、ウイズコロナ社会の中で高齢者の方が、元気で生きがいを持って暮らせる方法を一緒に考えていきたいと思えます。

それでは、委員長職務代理者より報告をお願いします。

【案件（1）広域型生活支援コーディネーター活動報告について】

委員長職務代理者：

（資料1の説明）

この間の取組について報告します。

1 市域での高齢者生活支援について、①助け愛隊の活動についてですが、残念ながら、緊急事態宣言が解除されて今から頑張ろうという時に、まん延防止等重点措置が発令されました。10月の緊急事態宣言が解除されて以降の約2か月間で、約30件の相談があり、大型ゴミを出して欲しいという相談が半数でした。

相談の中には、千里ニュータウン地域の建て替えに伴い、大型ゴミを出して欲しいという相談があり、千里ニュータウン地域では、建て替えに伴う移動、引っ越し、家の片付けが地域の課題として捉えられるのではないかと考え、担当地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーと情報共有しています。

オール吹田に限らず、地域でこのような取組が広がったらいいなと考え、すいたの年輪ネットの皆様と話し合ってきたところですが、千三地区において助け愛隊同様のルール、仕組み作りを行い、地域でのボランティア活動を始めました。

相談事は社会福祉協議会に入り、千三地区の相談は、千三地区のボランティアで対応しています。地域版助け愛隊であり、地域のオリジナルで検討が始まっています。

地域で相談を受け付けて、地域でコーディネート、活動するという完結型の地域版助け愛隊を山三地区や吹一地区では単一自治会で取組を始めました。

委員長職務代理者：

②元気・健康フォーラム2021については後程、報告します。

2 地域での高齢者生活支援について、①高齢者対象のオンスマホ講座の開催のサポートについては、すいたの年輪ネットでも引き続き、取り組んでいかなければと思っています。現在、12地区で14回開催し、開催予定で中止になったところ

もありますが、開催に向けてサポートしました。

どこかの団体だけが頑張るのではなく、それぞれの団体が連携しながら皆でオンライン講座を開催しています。

- ② 各地域の高齢者生活支援体制整備のサポート・調整については、各地域の特性にあわせた検討会を取り組んできました。6つの地区で取り組みましたが、ここでは3つ地区を紹介します。

津雲台地区では、検討会を重ねています。その中で、地域の特性を皆で考え「坂道の多い町」ということ、コロナ禍で高齢者は外出の機会がない、それに伴って体力の低下が著しい、体操する場が必要という話になりました。坂道が多いということが、高齢者の移動を妨げてしまうならば、身近なところで何か作らないかということになりました。

現在、ひろばde体操を実施するにあたって介護予防推進員を交えて企画会議を行う予定です。意見交換の中で、地域課題を皆で共有し、それに対応する方法を考えて、春頃に体操の場を設けるつもりです。

豊一地区でも福祉委員会、高齢クラブ、地域包括支援センター、介護保険事業所等も交え定期的に打ち合わせ、意見交換をしています。

まず、地元の高齢者が通える場所はどこにあるのかということ、皆で意見交換しました。遠かったらなかなか行こうと思わないため、近いところがいいという意見から、どこに何があるのか、ICTツールを使いながら皆で共有してきました。

その中で、遠い所より半径500メートル以内が高齢者は出やすいのではないかと意見が出ました。その範囲でお散歩できるコースを作ってはどうか、お散歩マップやコースを考えようということになり、歩こう会の簡単バージョンを意識し、今後ルートを考えていく予定です。こちらも春頃に開催できればと思っています。

最後に、佐竹台地区です。こちらは2年程かけて地域全体で、関係機関の顔が見える関係で意見交換を重ねてきました。

その意見の中に、千里ニュータウン地区に共通して言える「坂道の問題」があります。佐竹台地区は、細長いという土地の特徴があり拠点になるところに行くのが大変で、移動をどうサポートしたらよいかと意見交換しました。

その中で福祉施設が快く「施設の車を使っていいですよ」と提案があり、ルールや約束ごとを地区福祉委員や福祉施設の間で、地域包括支援センターと社会福祉協議会も一緒に協議しました。

ふれあい外出配食の機会に使用できたらと考えていたところ、まん延防止等重点措置が発令され中止となりました。施設では、社会貢献、地域貢献、福祉活動に取り組んでいきたいということで、このような提案に乗っていただいた

と思います。

- 3 地域ケア会議との連携・連動について説明します。地域ケア会議はブロック単位で年4回開催されています。

その中で、坂道の多い町、スーパーが離れている、買い物をどうサポートするかというところが議論になりました。出された課題をどうしていくのがよいのか地域団体と一緒に意見交換しました。

先程の坂道の多い町、スーパーが離れている、買い物をどうサポートするかについては、すいたの年輪ネットにてこれから地域でどう取り組んでいくかです。今回は地域ケア会議の中から意見を受けて、皆でどう考えていくかというところだと思っています。

- 4 その他についてですが、今年度は高齢者サポートリストの「生活支援サービス編」と「シニア世代の活動場所編」2つの冊子を更新しました。資料5の「シニア世代の活動場所編」は、高齢者の社会参加を後押しするために、高齢者が吹田市内で活動できる場所をリスト化したものです。

20から30ほどのボランティア募集の情報を載せています。3年ほど前に発行したのですが、市民フォーラムで改めて皆さんにお示しできるように更新しました。

本来であれば、すいたの年輪ネットの皆さんと一緒に更新作業を進めたかったのですが、時間もなく、コロナ禍ということもあり事務局と相談しながら更新作業を行いました。また、冊子に目を通していただき活用して欲しいと思います。

吹田市ホームページ、社会福祉協議会ホームページにも掲載しておりますので皆さんに声をかけていただけたらと思います。

次に、資料4の生活支援コーディネーター～耳より情報局～ですが、5年間のすいたの年輪ネットの活動で、高齢者の生活支援をどう取り組んできたのかを順に追って紹介しているリーフレットになります。

市民フォーラムの際、皆さんにお配りしました。平成28年度の発足から令和3年度までの取組を紹介しています。

最後に、令和3年12月末に片山地区で火災があり、25世帯が避難されました。25世帯が火災したのではなく、被害に遭われたのは数世帯でしたが、火事でライフラインが中断したため、寒い中、公民館に避難することになりました。その生活支援についてコーディネートし、また福祉ニーズのある方への対応も行いました。

その中で一人暮らし高齢者の方が3分の2でした。福祉施設に半身マヒの高齢者の施設入所等の相談をした中で、生活支援も行いました。

委員長：

ありがとうございました。コロナ禍で、制限のある中、様々なことへの取組報告だったと思います。オンラインの委員の皆様、参集の委員の皆さん、何か意見、質問ありませんでしょうか。

K委員：

資料1において、地域の施設が車を出されたとありますが、具体的にどこでしょうか。

委員長職務代理者：

ふれあい外出配食をするにあたって、高齢者の方が拠点となる市民ホールまで歩くのがしんどいため、参加できないという声がありました。地域の特別養護老人ホームのデイサービスの車を施設の方が運転し、3、4人を乗せて拠点まで、移動支援する予定でした。

K委員：

ありがとうございました。

委員長：

他にオンラインの方も意見はないでしょうか。

コロナ禍で、実施しにくくなっていること、実施出来なかったことがたくさんあります。今回も、書面開催でどうかと議論もあったのですが、事務局や広域型生活支援コーディネーターが皆さんと話し合うことで、来年度のすいたの年輪ネットをより良くしていこうと考え、オンラインで開催することになりました。

そういう意味においては、この3年間でオンラインでの取組が非常に進んだと思います。ただオンラインに切り替えたらいいかということだけでなく、上手くハイブリッド型で行うなどし、これからの地域福祉を考えていければいいと思います。

次に、進めてよろしいでしょうか。

【案件（2）元気・健康フォーラム2021について】

委員長職務代理者：

（資料2、資料3の説明）

先ほど、資料4、資料5については報告しましたので資料2、資料3をお伝えします。

すいたの年輪ネットの委員の皆さんは、参加ありがとうございました。盛大に開催することが出来ました。コロナ禍で、どこまで出来るのか、来てもらえるのか心配し

ましたが、資料3のアンケートの項目にありますとおり、参加者48名、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー、事務局メンバーも入り盛大に開催できました。冒頭に、新崎委員長から高齢者の社会参加は大切だと後押しする講演の後に、すいたの年輪ネットのC委員より～耳より情報局～を活用して5年間の取組を報告しました。

その後、各テーブルに分かれて意見交換をしています。その集約が資料2になります。いろいろな意見がありました。

高齢者の生活課題はどのようなことがあるのか、ウィズコロナの社会でこれからどのような活動が求められているのか等を話合いました。

その中で「会場に来て、話ができただけで楽しかった」という声も多く聞きました。

高齢者の生活課題については、高齢者の体力が落ちているという意見がありました。外出しないから体力が落ちているのか、体力が落ちているから外出しないのかはわかりませんが、外出しないことで、人と会うことが少なくなり、認知症のような症状が出たり、健康のことが心配になったり、社会との繋がりが減ったという意見もありました。

これまでにボランティア活動をしていた方が、活動できなくなり、自粛となったため、フラストレーションが溜まるという意見もありました。

外出が減ったがその間、出来ることにチャレンジし、社会参加の時間に充てたり、自分磨きの時間に充てたという意見もありました。

中には、今まで苦手でできなかったが、やってみたら出来たという話や、活動の仕方を別の方法に変えたり、活動自体を工夫してみたという話や、今までの訪問活動を電話に変えてやってみるなど、色々と工夫しながら、この間取り組んできたという報告がありました。

今後、高齢者生活支援活動でこんなことがあったらいいなという中では、ICTの活用という意見があり、活用するときに教えてほしいという声がありました。またボランティア活動をしたいが、どこに相談したらいいのか、どんな活動方法があるのかという声もありました。

また、地域活動を充実していくべき、この機会に違う意味で活性化する必要があるのではという声もありました。

その中で、印象に残ったことが一つありました。南千里会場で、ベテランのボランティアの方に久しぶりに会いましたが、怪我をされて杖をつけていました。「もう身体も弱った。コロナをきっかけにボランティアやめようと思っている。でも、このチラシ見たら話だけだったら聞けると思い参加した。」と話していました。

新崎先生の背中を押してくれるような話を聞いたり、参加者と意見交換することで、「少し前向きになった。コロナが落ち着いたら活動始めようかな。もう1回ボランテ

「ボラ活動しようかな」という前向きな話が後でありました。

私たちは、介護予防という言葉をよく使いますが、それは体操、脳トレのイメージになりますが、今までやってきた活動を元に戻すというだけでも、十分に介護予防につながります。市民フォーラムへの参加がそのきっかけになったと思います。まさしく、元気・健康につながると思いました。

参加された皆さんからの意見、感想をお願いします。盛り上がった点、逆にこうしたらよかったなと思うことなどの意見もお願いします。

委員長：

参加された方で感想をお願いします。まず、オンライン参加の方がいかがでしょうか。

N委員：

思った以上にグループで話が盛り上がりました。何か回答を出せるとかではないですが、皆さんがやりたいこと、困っていることを話しました。個人的に困っていることに対して他の参加者の方が「〇〇へ行ってお話されたらどうですか」と助言され、皆さんの気持ちがこのグループワークを良いものにしようという雰囲気、とてもよかったです。

委員長：

ありがとうございました。他に、いかがでしょうか。

D委員：

第一印象で男性の参加がとても多いと思いました。いろいろなことをどうしたらいいかわからないという方も多かったです。市報に情報がたくさん載っていることを話しました。

委員長：

今、統計的に見てもお一人暮らしの高齢者の方が多く、地域にほとんど関わっていない男性の社会参加が一つのキーワードとなっています。市民フォーラムの中で、互いに情報共有をしたい、しんどいところをお互いに話し合う中で、自分も一人ではない、頑張らないとだめと思えるような素敵な市民フォーラムだったと思います。

他に、いかがでしょうか。

K委員：

資料2の②あったらいいな！With コロナの高齢者生活支援活動の⑱ですが「ボランティア精神が理解されていない。高齢クラブは、もう少し踏み込んで社会参画して

ほしいとあります。具体的に何か話していなかったですか。

委員長職務代理者：

全てのグループの話は、記録でしか把握していないためわかりません。

K委員：

高齢クラブでは、令和4年度の社会貢献活動を検討しています。そのため具体的な意見を聞ければと思いました。

バリアフリー作戦をこの1年間やってきました。我々が行うバリアフリー作戦とは、生活している近所にある危険な箇所を取り除くということで、19件対応しました。依頼で多いのは、道路標識が消えているので書き直して欲しいということでした。これらは市に連絡すると早く対応してもらえます。もっとやりたかったのですが、組織として動けない時もあり、このような件数になり、来年は実施しないことになりました。コロナが落ち着いてから、もっと依頼が出てくるのではと思っています。

委員長：

本当にさまざまな領域で、やりたかったが、やれなかったという声があると思います。出来なかったことを深刻に考えるのではなく、皆さんと一緒に考える場をつくり、維持していくという今のことが、とても大切だと思います。

他にどうでしょうか。事務局で感想あればお願いします。

事務局：

皆さん非常に、いきいきと参加されていた感じがします。内本町会場もとても盛り上がっていました。

委員長：

ありがとうございました。高齢者も学生も一緒だと思います。去年の10月に緊急事態宣言が解除された直後の大学での授業では、今までグループワークに消極的だった学生たちが本当に一生懸命に自分たちの思いを話していました。

この後、皆さんに一言ずつお話していただきますので、委員長職務代理者からの報告を聞きながら考えておいてください。

引き続き、次の案件に進めてよろしいでしょうか。

【案件（3）すいたの年輪ネットのこれまでの取組について】

委員長：

これまでの取組ということで、資料6を見てください。委員長職務代理者が作りました。2018年からスタートした事業が、どういった形で進められたかを、話してもら

います。

委員長職務代理者：

資料6の説明をします。今年度のすいたの年輪ネットは本日で、終了となります。この間、すいたの年輪ネットの委員は2年を1任期として平成28年度より3任期が終わりました。どのような取組があったのかをまとめたものがこの表になります。先ほどの資料4～耳より情報局～の中面の左上の高齢者の社会参加に関する調査が、実は全ての基になった調査です。

高齢者の生活支援と社会参加に関する調査を平成28年に行いました。たくさんの項目があがっていましたが、全部をすいたの年輪ネットで話すのは難しいため、4項目にしました。

①気軽に立ち寄れる居場所、②地域活動への参加、③高齢者に必要な生活支援サービス、④高齢者による高齢者の生活支援の4項目について集中的に話しをしようとスタートしました。そのうち、①、②の社会参加に関することについて平成29年度から集いの場の集約や、集いの場を充実させる、活性化させるにはどうしたらよいかということを検討してきました。検討した内容を書いてあります。

③高齢者に必要な生活支援サービス、④高齢者による高齢者の生活支援の検討を行い、市内の生活支援サービス集約を平成28年、平成29年に行いました。また、地域の取組はどうだったかについて考え、すいたの年輪ネットで市域の取組をカバーしようということになりました。

やはりオール吹田で考えるよりは、地域の生活に密着しているブロック単位で意見交換しようということになり、「これからを考える会」を開催し、毎年度積み上げてきたのがすいたの年輪ネットになります。

その中で、例えば、集いの場の集約をした後、高齢者の社会参加やアクティブシニアの養成をどうすすめていくのかということ、また高齢者生活支援サービスを集約した後に、この情報をどう活かしていくのかということを考えました。そこで高齢者が困っていることとして、社会参加したいけれど、どこに行ったらいいのか、何をしたらいいのかわからないというアクティブシニアの困りごとと、こんなこと手伝ってくれたら助かるという生活の困りごとの2パターンがあり、マッチングしたのが助け愛隊になります。

高齢者の生活支援をどうサポートするかという仕組みだけでなく、社会参加のきっかけにもなります。

助け愛隊のボランティアの平均年齢は73才で、まさしくアクティブシニアといわれる人たちの層になります。高齢の方でも、電球交換だけならするよと声をかけてくれたりします。

地域の「これからを考える会」で、検討したことをさらに深めていく、進化してい

こうと考へ、地域包括支援センター、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーと広域型生活支援コーディネーターも一緒に意見交換することからスタートしています。それぞれの地域で、これからどう取り組んでいくかを考へ、話し合いを進めています。

令和2年度から3年度にかけては、広域型生活支援コーディネーターが中心となってアクティブシニアのボランティア養成講座を開催しました。また、体力低下が危惧された高齢者に対しては、福祉施設職員による体操やレクレーション等を『e コミ』という ICT ツールを活用して動画配信したり、「集いの場」編リスト情報をデータ化して情報提供しました。しかし ICT が苦手な高齢者にこのような生活支援ツールをどう活用してもらうか、が今後の課題でもあります。

また、コロナ禍ということもあり、オール吹田での取組を進めていくことが難しく、少人数で地域ごとの話し合いにシフトしていきました。

報告の中にもありましたが、各小学校区単位で集まり、今の高齢者はどう思っているか、始まっている活動のことや、取組について意見を出し合いました。その中から、優先順位をつけて散歩してみよう、体操の場を設けよう、移動支援を考えてみようというオール吹田ではなく、地域単位への取組にシフトしました。

令和4年度以降はどう取り組んでいきたいかを、この後の全体協議で皆さんからの意見をもらいたいです。すいたの年輪ネットは、広域型生活支援コーディネーターが決めるものではなく、委員の皆さんより出された意見を取りまとめたものを反映したものになります。

今回も協議会の中で、皆さんから意見をもらい、できることとできないとも踏まえつつ、優先順位つけて、令和4年度以降の取組を考へることできればと思います。

委員長：

ありがとうございました。この協議会は、2015年に介護保険制度の改正があり、要支援の部分の財源が市町村に移り、それぞれの市町村で有償サービスや、高齢者の生活支援や地域づくりをしていかなければいけないため、生活支援サービスの体制を整備するためにスタートしたのが原点です。

団塊の世代の人たちが65歳となる2015年、そして10年(2025年)後には、後期高齢者となります。後期高齢者になることが問題でなく、65歳からの10年間のライフスタイルを、どういきいきと過ごしていくかが大切になります。

そして、その過ごし方によっては、将来の医療や福祉、介護に関わるリスクを少なくするということにも繋がっていくかと思ひます。

他市の会議にも関わっているのですが、他市はあらかじめ行政や社会福祉協議会が、プログラムをトップダウンで決めて、話を進めるということが結構あります。最初は、その活動を進めようとスタートしますが、住民の方が必要性を感じていな

いため、活動が進まないということを他市で聞くことがあります。

すいたの年輪ネットの特徴は、委員長職務代理者が繰り返し、話しているように住民の方などが委員として入り、すいたの年輪ネットでの話し合いや、出された課題を具体的に事業に落とし込んでいったり、また皆さんが地域の方々と必要な部分を一緒に作り上げていくという形になっており、下からのボトムアップが大きな特徴だと思います。

また、市域で助け合いはできたけれど、もう少し自分たちの地域でも、より細かくやりたいという主体形成は、住民のやる気や元気が出てくるような活動に繋がります。このようなことも、すいたの年輪ネットの大きな特徴になると思います。

ICTを活用するために、大学生が社会参加するという、高齢者はICTの活用が苦手という部分を、上手く支えるWinWinの関係を、すいたの年輪ネットでは丁寧に作ってきたと思います。

従来からのサービスを作るための協議会だけでなく、悩みや生きがいを踏まえつつ、地域の特性に合わせた事業を令和4年、令和5年の2年間で、今までの市域で作った枠組みの部分を、それぞれの地区でどのように進めていくかということが課題になってくると思われました。ぜひ、皆さんからの意見を聞かせてください。

感想でも、意見でも結構です。いかがでしょうか。

【案件（4）全体協議「これからの『すいたの年輪ネット』で取り組むテーマ」

N委員：

現在、ボランティア活動をしています。コロナ禍で活動することが減り、小さい単位で話し合える場を持ちたいです。それがお互いに助け合えるきっかけにもなると思います。

委員長：

わざわざ行政や専門職のところまで相談に行かなくても、少人数で話し合いすることで、顔が見える関係性もでき、相談することができるということですね。これが予防的支援にも繋がるということですね。

他に、意見はないでしょうか。

M委員：

私たちの地域でも白寿会の活動は、小さな単位で話し合いをしています。それは遠くまで行くことはできない方がいるためです。またコロナ禍で多くの人数が集まることはできないので、4、5人集まる場所をたくさん作りたと思っています。そういう場所を作ることで認知症が進まないようにしたいです。

また近所同士の話合いが大事で、お互いに連絡し合い、近所で困っている方が、

どのような状況なのかを情報交換をし、その方への支援をどのようにしたらよいのか、ということ話し合うことができると思います。

委員長：

他に、ないでしょうか。

E 委員：

人と人との繋がりは、オンラインでもいいのではないかと思います。もちろん直接会うのも大事ですが、逆に会うということに抵抗があったり、オンラインの方がハードルが下がり、会いやすくなるのではないかと思います。

委員長：

対面とオンラインの両方が必然となってくると思われますね。

C 委員：

コロナ禍で生活支援コーディネーターと一緒に、地域への取組を進めてきましたが、高齢者の体力や筋力の低下が顕著な中、健康や予防的な取組は必要であると思われま

す。
現在、吹田市では、いきいき百歳体操などの介護予防について、取り組まれています。また、地域の身近な取組の中で進めていければと思います。

また、スマホ講座を開催することで、学生や福祉施設など色々な人との関わるきっかけになっていますが、まん延防止等重点措置の中で進みにくいこともありましたので、次年度も同じように取り組んでいきたいと考えています。

委員長：

いかかでしょうか、会場に参加している方で意見はありませんか。

J 委員：

コロナ禍でありましたが、ふれあい外出配食だけが継続して活動でき、少しでも高齢者の顔を見ることができました。今後もこれだけは続けていきたいと思ひますし、関わっている方々や高齢者の方も喜んで

います。
助け愛隊は、まだ立ち上げられていませんが、今後立ち上げていきたいと考えています。

委員長：

コロナ禍でなかなか動けないですが、コロナ禍だからこそ、次に助け愛隊を立ち上

げてみたいと思うのも大事なことですよね。

J 委員：

やはりお節介は大事です。

委員長：

お節介はほんと大事です。よく学生にも、「お節介」という字の説明をしています。また「情けは人のためならず」という意味も、情けは人のためにもなるし、自分自身にも返ってくる。人に親切にすると自分のためにもなるということです。

O 委員：

アクティブシニアといえ、シルバー人材センターの組織もそうですが、会員もコロナ禍で活躍できない方も出ています。何とかしなければと思っています。

いきいき百歳体操や助け愛隊、大学生との交流の取組など素晴らしい活動だと思いますが、地域の課題は全市の課題と捉え、広がって行けばと思います。本当に出かけてほしい高齢者が、いきいき百歳体操や助け愛隊等がきっかけとして社会参加できるように、さらに次年度は、こういう高齢者にどう促していくのかを考えていかないといけないのではないかと思います。

委員長：

本当に出てきてほしい高齢者が出て来られていないのではないかとということです。このような地域づくりに関わっていない高齢者を、今後はどうしていくかということですよね。

A 委員：

コロナ禍においても、地域で様々な活動を行っていただいていることに、大変感謝申し上げます。コロナ禍になり、皆さんが人との繋がり大切さを再認識されていると感じております。

行政としても、こうした機会を通じて意見を聞かせいただき、コロナ禍でも人が集える機会を作っていくといけないと感じています。

また、急速な ICT 化に伴い、色々な取組や活動を行っても、ICT 機器に不慣れな高齢者の方に十分届かないことを危惧しており、本当に知ってもらいたい方への情報発信やデジタルデバイド対策にも取り組まないといけないと考えています。

今後、第 9 期の計画策定に向け、アンケート調査を実施しますが、様々な機会を通じて皆さんの意見をしっかりと聞きながら施策に推進していきたいと考えております。

委員長：

力強い意見をありがとうございます。

他、ございませんか。

B委員：

これからのすいたの年輪ネットを考える上で、本日の資料2の「あったらいいな！With コロナの高齢者生活支援活動」についての意見を見ると、③の助け愛隊の相談者は、ひとり暮らしを対象としています。対象を拡大してもいいと思います。

また、⑤ひろば de 体操等への参加について、誘われると参加できるが、一人だと参加できない人に対して、お互いに誘い合って参加できる仕組みがあれば、閉じこもりがちな高齢者を減らせるという意見は、その通りです。誰かお節介な人を見つけて、参加してもらうという視点が大事ではないかと思います。いきいき百歳体操も同様です。

また、新たな繋がり作りというところでは、スマホ講座の開催も今後も増えていてほしいところです。

また、身近な地域で活動していくということでは、現在の広域型生活支援コーディネーターの新宅氏だけでは限界あり、地域型コーディネーターの設置について、吹田市での進捗情報を教えてほしい。

委員長：

「あったらいいな！With コロナの高齢者生活支援活動」についての意見をみると助け愛隊の対象ももっと拡大して行ってほしいですね。

地域型生活支援コーディネーターの配置については、事務局から進捗情報をお願いします。

事務局：

第8期の吹田健やか年輪プランの中に挙げているように、地域型生活支援コーディネーターについては、令和5年度中の配置に向けて検討を進めており、第8期計画での配置を目指しているところです。

委員長：

ありがとうございます。B委員の意見については、他市では、生活支援コーディネーターは65歳以上のみにしか関われないという縛りもあり、地域への関わりがしにくいこともあります。また逆に高齢者への支援として、子育て支援や子どもの居場所づくりまで関わるという幅広い生活支援コーディネーター像も考えられます。これらのこともこれからの検討課題とも言えます。

N委員：

いきいき百歳体操の活動を地域で行っていますが、認知症の方や杖を付きながら参加している方もいます。身近なところで活動することで、困っている人を助けられることができます。地域の中の小さな単位で活動ができればと思います。

委員長：

オンラインでいきいき百歳体操を録画し、それを近所同士で見てもらったり、DVDにして訪問し活用してもらうなどの「お節介」をしているのではと思います。

I委員：

吹六地区では毎月、ふれあい外出配食をしています。ふれあい昼食会の利用者は60人ぐらいが一番多かったのですが、ふれあい外出配食になってからは80人ぐらいの利用者になっています。利用者の中に80代後半から90代の方もいますし、自転車で来られる方もたくさんいます。2月も活動をするかどうか悩みましたが、活動側も利用者側もとても楽しみにしているので、引き続き活動することにしました。

活動場所も今は自治会館なので、以前の内本町コミュニティセンターより近くになり、より多くの方が利用しています。その中には認知症の方もいます。来られた時に声掛けをして発見することもできています。その場合は私達、民生・児童委員は、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーや地域包括支援センターに支援を繋いだりしています。

いきいき百歳体操の活動も50人ぐらいだったのが、ロコミで80人に増えました。今はコロナ禍で減ってはいますが、また増えるかと思っています。

他の地区で実施している大学生との交流活動も、一度やってみたいと思います。

委員長：

いきいき百歳体操や、ふれあい外出配食をすることで予防的支援ができており、とても大事な活動だと思います。

L委員：

高齢者からの相談で、デイサービスに出ていくことを同居していない若い世代から嫌がられ、高齢者が怒られるというのを聞いています。

私たちは、ただ出ていくことだけを勧めるというのではなく、高齢者の話に耳を傾けています。

高齢者の中には閉じこもりになり足の浮腫などの症状を、医師と対面ではなく、電話での診察となってしまう、症状を直接診てもらい、またいろんな愚痴をこぼすことができなくなっていると思います。

活動する私達が、一人一人に声を掛けて、高齢者の心が折れないようにこれからも支援していきたいです。

委員長：

コロナ禍で、家族から高齢者への感染を心配することで、高齢者自身が外出できなくなっているという課題ですね。解決策は難しいですが、電話相談等があればいいかと思います。

L委員：

吹田市でも傾聴ボランティアはありますが、活動人数も少ないですので、もっと身近に増えていけばと思います。

委員長：

傾聴ボランティアは、コロナ禍で施設や自宅訪問には行けなくなっています。社会福祉協議会で、電話での傾聴ボランティアも考えていってもいいかと思います。

F委員：

普段、地域と関わるのが少ないので、こんなに地域には高齢者と関わって活動されている方々が多いのかと思いました。

私も先日、熱が出て出社できない状態だったのですが、外出できない状態となれば、銀行等に行ったりすることもできず、大変困ったという経験をしました。高齢者の方にとっても出られないというのが、本当に困ると思いました。

K委員：

高齢クラブを運営していますが、コロナ禍に関わらず今一番悩んでいることは、高齢クラブでの各リーダーの後継者不足です。

今までは全てボランティアで活動し無報酬でした。後継者には団塊世代の方々と考えていましたが、理由は色々あるでしょうが、シルバー人材センターの活動は行っているという人もいます。これは報酬があるからだと思います。

これからの高齢クラブの運営としては、法人化したこともあり、無報酬のボランティアでは存続できないのではないかと考えています。交通費ぐらいは支払わないと、団塊世代の方々に来てもらえないと考えています。これを解決しないと、進んで行かないと考えております。

今はメンバー全体が80歳代となり、体力と共に低下してきており担い手不足になっています。

委員長：

高齢者大学や生涯学習の中で、担い手不足をどう研修していくかということです
ね。

G委員：

介護保険関係の業務をしています。コロナ禍で介護保険の認定調査を先に済ませ
認定の結果が出て、結局、感染が怖くて地域包括支援センターやケアプランセンタ
ーにも相談もできず、半年程遅れて介護保険サービスを利用するといったケースも多
くありました。やはりコロナ禍では、直接相談をすることが難しいのではないかと
思います。

そのような中で ICT は、私たちもコロナ禍になってから使い出していますが、今後
は、ICT を活用して高齢者からの相談を受けるようなことができると思います。

委員長：

あと発表されていない方いませんか。委員長職務代理者は何かないでしょうか

委員長職務代理者：

色々な意見ありがとうございます。その中でも介護予防のための社会参加というの
は、非常に重要だと思っています。皆さんが言う背中を押してくれる存在、お節介を
する方をどう発掘するか、もちろん発掘することも大事ですが、現在、すでに背中
を押してくれているお節介をする方々が地域にたくさんいます。

各種団体の方に限らず、たとえば認知症サポーター養成講座を受けられた方々や、
認知症の人やその家族を支える仕組みづくりや、認知症ケアの質の向上を推進する認
知症地域推進員もいます。

今後はこの方々とどう連携していくか、ある団体だけが頑張るというのではなく、
どう連動させながら進められるかを検討したいです。

また、助け愛隊についてもどう地域にフィードバックしていくか。助け愛隊の対象
もどうしていくか、次年度皆さんと検討していきたいです。

委員長：

現委員の任期も今年度末となります。本来なら、お一人ずつ感想や意見を聞きたい
ところではありますが、今回は時間短縮もしておりますので、何かお気付きのこと等
ありましたら、委員長職務代理者もしくは事務局にお伝えてください。

この2年間、すいたの年輪ネットに関わっていただき、本当にありがとうございました。

この2年間は、やりたかったことができなかつた2年間でもありましたが、何もで

きなかったことを後悔するのではなく、できなかったことをベースに、次年度も引き続き、委員の方々と作り上げていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務局：

長時間、どうもありがとうございました。

委員長：

それでは、すいたの年輪ネットを閉会とします。